





一  
世  
變

本  
朝  
又  
鑑



# 獅子菴遺稿



選<sup>スル</sup>本<sup>ニ</sup>お文鑑<sup>シ</sup>序

蓮二子房



昔よりけり連龍のほありけりきり文章あれ  
連龍も文章あり文章はほのほとひらひらとせ  
れども文章のほのほとひらひらとせり  
文章ありて和漢の文章とてかきかきとせ  
とてにそのほとせりありけりけりけり  
かきかきとせりけりけりけりけり  
あのはとせりけりけりけりけり  
いけりけりけりけりけりけり



本朝文監首



五人のふとりて我家の爲に斯文ありと今日  
さうよそ七人の名のあはれや海山のさかしくんや  
海山の深き所もや海に群魚の過當あるをわれ  
常永乙雨の比あはれ湖東の五老井よりまよとありそ  
以信文選とむとるめありけり我々の作たるもの  
そかいぞ二に章にあはれ選者いふなり作意  
あれは俳諧の意地とすし一くして吾人連年師は  
敵とあればんまゝと今此選場となす今よまき年の  
解とえひてきくと金玉の有りあつても對して  
虚實とあらば人は人としてけりなかりて我師

五ヶ條の法と書し、て文章の家、の式用、ふと、り、先、六、才、  
と、又、文章の虚實と、ある、一、教書、詔牒の、即、論、ある、  
才、二、と、又、文章の起結と、ある、一、一、句、の、断、續、を、  
ある、ね、い、得、あ、一、才、二、と、二、句、の、長、短、と、ある、一、句、讀、  
の、法、と、ある、い、さ、れ、い、讀、と、一、才、二、と、假、名、と、真、名、の、  
配、と、ある、一、條、文、と、も、余、遠、伸、の、り、ある、い、や、り、  
才、五、と、和、諧、の、字、格、と、ある、一、才、二、と、人、連、を、其、の、端、を、  
い、さ、り、一、と、ある、一、和、諧、と、い、一、格、ある、い、後、の、人、と、一、  
今、の、人、と、ある、一、と、ある、い、さ、り、と、ある、い、さ、り、と、ある、い、  
師、家、の、ふ、と、ある、い、さ、り、と、ある、い、さ、り、と、ある、い、さ、り、と、ある、い、











ノ毛ル時ナレハ能諸滅シノ声ニ喩ナリ老ヤシヌラト  
ハ能諸ノ要ヲ知レハ己ヲテテ人ヲトカメナリノ謂ナリ  
返辭ニ云

万物ノミレハ黒滅ありて。此句ハ起語ニシテ  
四相ハ世々變ナリ大ニある時ハ

反却スル。わき付を一念ノかき。此二句ハ同ニ結語  
ナカラフノ句ニ

連續セリ。此等ニ句讀角  
ヲ知レハ年曲ハ此次ニ註アリ

此二句ハ讀中ノ讀ナリ而却一年一月一時ト前ニ續キ又ハ此二句ハ前  
ノ二句ハ大少ノ二ヲ云イテ後ノ二句ニ其申ラ云ハ是ヲ錯綜顛倒ノ法ト云イ

テ大中ヤヲカニニセタナリ要常  
トハ四ノ事ノ轉布又ニシテ然ナラシムるに。此能諸ハ。上ハ返ス  
辭ニナ

次ハ起語ナレハ何レモ句ノ点ナキ或ハ發語ト起語トナキ或ハ返辭ト起語  
トナキ時ハ總ニ二ナキノ向ナレハ同シ也ヤナキ故ニ上ニ三句点ナ

加ヘ下ニ讀ト云フ加フ是ハ註者ノ心得ニシテ傳文  
ノ点ノ故實トモスハ以下ハ總テ此二点ニ效フニ守西宗鑑ナリ

レ行ナ。檀林のぬる。黒滅ナ。ぬ。此二句ハ結語ナリ  
檀林ノ後ハ雜波

ノ字因ヨリ要動ナリ其  
後ハ長短ノ句ニ減セリ。此の向ナレハ今ナ余ノナレハ

此二句ハ要減ノ物ニ結語ニシテ  
古代ノ能諸ノ四相ヲ云ナリ

此能のえんとて。此二句ハ讀中ノ讀ト云レシ又ニ語路  
ヲ新續ト云云アリテ世ノ又ニ此ニ

此ホラアヤナリ。此新續ヲ知ラナレハ長句ニ自  
ツキ所ナレハ二句トナセハ殊ニ大ニ句讀ナリ

ナリ。隨類得解の。此二句ハ讀中ノ讀ト云レシ又ニ語路  
ナリ。大ニ句法ナリ。右池や蛙

トヒユム水ノ音トハ故云雨ニ正風ノ始ニシテ世ニヒキタル各句ナレハ強動山山世  
ノ佛語ニ喩フ如来一音ニ演説法ニ衆生隨類各得解ストハ天下ノ

内人ノ様々ニナリナル云ヘリ。此二句ハ  
内流ノ分レラヌナリ。此二句ハ要動ノ四ヲ含ナリ

時と。やのむの。此二句ハ  
此二句ハ起語ナリ。句中ニ讀アルニ似タレトモ春其冬ノニナラ雪ニ言セ

テ二句ニ云ハハ意ハ二句ニテ起語ナリ。去レハ能諸ノ正風ハ五物ヲ云ナリ



其所ヲ失ハスト詩奇  
正道ヲ花鳥ニ云リ秋をひるふ藤の夕部とくあ  
て。で。序の末云ふへ後もたふなり。此二句ハ結語ト

此句ヲ起語トシテ連云ノ句ヲ結語トシレ總テ此句ヲ影四各  
互見ノ法ト云ナリ此句ノ向ニ面ナラズ云ル故ニ其冬ノ二子ヲ影四各  
レテ春秋ノ二子ニ互見セリ或ハ前ノ二句ハ花鳥ヲ對シ是ヲ句對  
ノ法ニシテ意對トハ遠イナリ或ハ此二句ハ知花ノ實トナリ鳥ノ冬トナ  
雪ノ二子ニ隔タレハ雲土ニ受テ格トモ云キカ或ハ秋ノ句ト春ノ句ト  
知花ヲ隔テ字對スハ是ヲ隔對ノ法ト云フ總テハ錯綜トモ云ユ  
ト四子ナラニ句ニ云フ時ハ互見ノ方ニ定リ又此ハ此四句ハ種々ノ  
文法アリテ此句ヲ起語トシ一句ヲ結語トスハ古今ニ珍キ句  
法ニシテ多ク又文章ノ數舞ト云ナリ去レハ結句ノ迷云トハ故  
ノ正風ハ此子ノ自然ナリ出テ花鳥ノ情ニ私ナラニハ風雅ノ感  
傷亡落ニト俊成  
ノ奇ヲ備テ云ヘリ 愛人何ものもこす余も。下。新し  
奇とあふひ。奇なり愛人ね。此二句ハ起語ナラ  
前ノ二句ヨリ二句ヲ

生レテ全ク句中ノ句ニテ長短ノ句法ノ鑑ト云ヘシ或ハ新奇愛人ニ  
ヲ以テ四句ニ分ケテ二句ニ對シタル正シク新奇愛人ノ四句ナリニ  
奇ノ字ニ上下ノ隔アリテ是ヲ互照ノ法ト云リ影四各互見ニ似テサレ遠イタル所アリ 減てりや十年  
ふ過てりや。此二句ハ古今ノ俳論ノ物結語ナリ但し二十  
余年ノ句ヲ起語トシテ減てりや十年ノ句ヲ

結語トシテ中間ニ三句ノ短語ヲ用イタル是ヲ也云れ。此二句ハ  
隔句ノ法ト云ヘリ隔對ノ如ク字ヲ對セサレ也。此二句ハ  
此語の文章ありて。百世の人此後あるらんや。此二句ハ讀中ノ一休ナリ  
此二句ハ讀中ノ讀  
ナリ然レハ上ニ讀ナリ 亡名の年々あるらんや。此二句ハ讀中ノ讀  
此句ハ序者ノ物結語ナラウ決テ前生後ノ句法アリ愛人亡名ノ年トハ  
師ナラテ終葉ノ記ラナリ東西ニ華ノ字ヲナリテ濃ノ草ニ踏ナリ  
セルカ實ニ俳諧ノ愛人知テ  
獅子庵ノ遺稿ニ此更アリ 今や又鑑の時人のたふ。此二句ハ讀中ノ讀  
ナリ然レハ上ニ讀ナリ



仇諧の夢とふふふあふね

此二句ハ起下結ニ  
を毛席者ノ會聚  
脚下

2 毘圀の玉と看過して。故宮又瓦と云ふ人

あはれ

○廿三句ハ意對ナリ文字ノ配リハ對セシト玉ト瓦トノ意ハ對ラズ故  
ニ兩句サマシク起句ニシテ一句点ヲ加フ意對ナハ起句トナル道理ヲ

味フニ辟言ハ杜律ノ野老河魚モ二句一意思ノ對ニレテ  
一句ヲ二句ニ充テ故三同シク起句ノ占ヲ加フ文法ノ鑒ヲ  
以テ示ス。彼ト

拾七

此一段ハ我師ノ詞ヲ返シテ此席ノ  
物結語トナセリ是ヨリ以下二ハ

又三下ヲ讀ミテ序詞ハ是ニテノ有ナリ去レハ世段ニハ句讀ノ多ク上ノ詞ヲ  
括辭ト云イ下ノ詞ヲ厨辭ト云フ括辭トハ見スヤ聞スヤナト倍詔ニハ

人ヲ括ルト云又ナリ  
釘辭ハ以下ノ註ニナリ

後、師のつゝあり。

此句ハ二  
三テ起語

十六卷詰モ發端モ同シケレト前ニハ師詰ノ我師ヲ云イ  
愛ニ云至早ノ我師ヲ云フ同句ヲ兩所ニ用ルノ文體ナリカ  
世ニ云至早

とてふにふれ。世に文章と云ふ人少し。  
百十八

讀三年或八年  
二百五十五部上云

韓愈のあふはふ了。句讀も

長生心主。

起語トナセリ是ハ本注ノ法ニテ前ノ本文ヲ

注釈也ナリ本ヨリ韓退之ヲ師説ニ句讀ハ五重ノ無業ニ云レト我師ノ  
文者ノ其レヲ知ラサルハ假名ニ六詞ノ長短アル故ナリ唐書ハ僕ハ明ノ一子ヲ俦ニハ

マキヲカト四子ニシテ  
況ヤ蓬六文字國ナリ

世有先解之詞、總詰するヤリ、抑は二序あり、詰したる筆三、ハ其ノ  
トハ數辭ニテ何カ詩ノ道ヲ傳ヘ建飾或ハ解クニヤトナリ

もかくて下はなほいふも

序有之然語トセリ

三

トフ凡ハ類ノ詞多シ先ハ同シ後ハ句ヲ前ニ二句スル時ノ右又

其時ニ向ノ倫ヲ示シテタチニ作ルニ去トモ又子ノ長短ヲ言明  
ラヌヲ云ナリ譬言ハ人之可畫而人之不可知ト有ク付ハ而テハ助語ニナシトモ

讀丸ナリ法微達所ヲ知ミ傳シテハ  
ハツハ畧詔ナリ其人無クハ文法ノ中ナリ  
一、新所のみ事と讀むるに



此句ハ起語ニテ誠ニ下ハ次辭ナリ。其ハ次辭ト云フ時ハ上ニテ三ノ詞アリテ下ニ  
二句アル時ハ何レノ詞ニテモ句五ヲ加フ。但シ百ノ付ハ下ニテキテ句讀ノ爲ハ  
ナクテモ言ヲ入ル。此ハ  
次辭ヲ云フニ加ヘテ。一層押復用の長短ともなる。數重

光教のみよと對。此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重  
用ヲ云フ。然レ長短ニテ三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
ハモ杜詩ノ對ナリ。能ハ大ニテ三ノ數重光教ハキテ對セルナリ。此ト云フ

こふと時。此二句ハ下ノ句ニテ三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
ト是ヲ句中ノ讀トス。此二句ハ下ノ句ニテ三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此

一但シ本朝又稱トハ其等ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
通用ヲ云フ。此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
ノ假名ト云フ。此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此

ト云フ。然レモ此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
然モ此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
上ノ物。此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
リテ詩ヲ論シ。此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此

歌人のみよと對。此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重  
此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重

か。此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重  
此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重

ハ長句ヲ云フ。此ハ其師ノ又三ノ様ヲ對セル等ナリ。對心得トス。此  
此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重

中ニ長短入レテ。此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重  
此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重

假名。此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重  
此二句ハ結語ナリ。但シ一層押復用の長短ともなる。數重



の風あふらん。何ふ人唐人のたふ真実あふらん。

此二句ハ起結ナリ

うすハ句中ノ讀トモハシ是モ休格ナラニ然レニ古文真実ハ日本ナリ。俗語ニ初四ニカクイ書ラズハ今ハ傳エホク唐ノナラニテ笑ハレシム。

人連名の風あふ。人記語の寛活あふ。

此二句ハ起結ナリ

此故下ハ返辭ナリ然レハ人連名ト云イ詩人解語トモハシ一箇ノ人ナラ上下ニ用イ西箇ノ師ナラ響カセタル是ラ又箇ノ法ト云イテ又箇ノ法ニ似テ又遠イアリ

人。以上ノ句ハ起結ニシテ書ク又章ノ人ナラハ詩人連解ハ

故ニ現ヤト又辭ヲ置テ選場ノ珍客ヲ云ニテ是モ數言者ノ類ニテ又法有在

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ

シテ上下ノ二句ニ書ラレタリ去レハ多クニ連解トハ連ニテ意ニ遠法師ニ

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ

シテ上下ノ二句ニ書ラレタリ去レハ多クニ連解トハ連ニテ意ニ遠法師ニ

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ

シテ上下ノ二句ニ書ラレタリ去レハ多クニ連解トハ連ニテ意ニ遠法師ニ

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ

シテ上下ノ二句ニ書ラレタリ去レハ多クニ連解トハ連ニテ意ニ遠法師ニ

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ

シテ上下ノ二句ニ書ラレタリ去レハ多クニ連解トハ連ニテ意ニ遠法師ニ

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ

シテ上下ノ二句ニ書ラレタリ去レハ多クニ連解トハ連ニテ意ニ遠法師ニ

下ノ段ノ物結語ナリ但レ此二句ノ角ニハ何トク一詞入キニ是ハ中書者ノ法ニ



ト打捨テ當然ノ用ヲ次ニ云ナリ但ニ并レトハ左ハ  
アルノ異名語ニテ漢文ニハ任他ト登テサモアルアレナリ起結の註とあり

ち。句讀の点とてくゝるい。此二句ハ起語ナリ然レニ此句ヲ  
起結ノ註ラマスレバ句讀ノ点

ヲ歴ヘタルトナリ云キニ上ニテナト下ニハナトノ手ハ波ヲ置タルハ上ノナ  
クナニ息ヲウキナ語路ノウヤ又タメナリ然ラナト此二句ハ一句ニモ聞ユレハ  
二句ニモ聞ユレナリ此故ニ下ノ句ニモ魚用ノハナナヲ置タルナリ又ニ西句ノ論ヲ  
知スハ助語ノ用魚ニ用ラヌニナリ語路ノ斷續ヲ多クニ知リ假名有ク名ノ配ヲ  
多クニ知リテ句讀  
ノ点ハ上ニ明ナレタム一節の凡例ナリト云カヤ所ナリト云ハ

二句モ結語ナラフ喜ハ二句ニシテ讀中ノ讀ナリ去ハ前  
 ニ格アリテ前ノ句ニシテ一句ナリ對セリ去ハ後ニ例上

八、奥三教多ク又夏ラノ序同ノ向ニ看出ヒテ一所ニ埒ヲ明ルヲ云ハハ效之ノ  
ニ云ハル例ノ筆法ニシテ一部ノ文法句格ヨリ句讀長短ノフ差別ナト  
此序ノ註ニアケタハ外題ニモ凡例ノニ子アリ但シ此註ヲ凡例ト見ル  
ハシむモ此序ニ十四條ノ文法アリナニ條ノ句格アルハ先ハ此序ヲ看ミ  
シテ句讀長短ニ和漢ノ差別アルト文法句格ノ似テ似ルヲ知ラハ文鑑一部モ  
云々三冊ナニ古今ノ文章ヲモウミニ明ヤリトシ

或曰漢ニ句讀ノ法ト云フハ語ノ絶ヘヌ処ヲ讀ト云イ語ノ絶ル処ヲ  
句ト云イテ讀ヲ先ニ中ニ息レ句ヲ後ニ大々ナリ息ス然レハ句讀  
ハ一意ニソ句中ニ讀ヲカタリト見エ譬ハ「春ハ野山ノ雪消テ」  
テ○鶯ノ声モ和ラカニ。如此兩息レテ足レ句ト云イ此句ヲ  
墨ニテ一五甲ト云リ尤モ此点ハ秘書校書ノ式ニノ漢文ハ  
總テ此法ナリ去レ氏倭文ニ考レハ句ハ直地ニ其事ヲ言放シ讀ハ  
分明ニ其理ヲ訓解スト見レハ句点ヲ先ニ讀点ヲ後ニ句讀  
ハ但レニ意ハ云シカ譬ハ「春ハ野山ノ雪消テ」鶯ノ声モ和ラ  
カニ。柳ノ色モ濃ヤカナリ。如此ニ点レテ一句一讀ト云フ時ハ或ハ  
二句一讀アラシモ或ハ句五讀アラシモ句中ノ句ト云イ讀中ノ讀



ト云イ或ハ句中ノ讀<sub>レ</sub>点云イテ讀<sub>レ</sub>点ノ終リヲ一句ト見<sub>レ</sub>ルヘシ去<sub>レ</sub>ハ漢文ノ讀<sub>レ</sub>ト句トヲ合<sub>レ</sub>テ一停ノ処ヲ一句ト云<sub>レ</sub>ハ主<sub>レ</sub>倭文ノ句ト讀<sub>レ</sub>ト合<sub>レ</sub>テ一停ノ処ヲ一句ト云<sub>レ</sub>シモ總ニ先後ノ違イノミナト倭文ハ讀<sub>レ</sub>ヲ先<sub>レ</sub>中間ニ点ス<sub>レ</sub>中ニ在<sub>レ</sub>ル点ハ中絶ノ意ニ其<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>ヲ句絶トヤ云<sub>レ</sub>キ字書ニ讀<sub>レ</sub>字ノ註解ト按書ノ点式トハ取<sub>レ</sub>リ違<sub>レ</sub>アルヤ倭文ハ句<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>ニ<sub>カクハラ</sub>点セ<sub>レ</sub>ハ語ノ絶ヘ<sub>ル</sub>ト知<sub>レ</sub>リ讀<sub>レ</sub>ヲ後<sub>レ</sub>中間ニ点セ<sub>レ</sub>ハ語ノ絶<sub>レ</sub>即<sub>レ</sub>ト知<sub>レ</sub>ラン但<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>点ハ連續<sub>レ</sub>テ<sub>カクハラ</sub>点ハ断絶ト云<sub>レ</sub>ル点式ノ道理モアル事ニヤ今ハ和漢ノ差別ヲ論ス<sub>レ</sub>ハむモ後勘ナカラシヤ法ハ知<sub>レ</sub>リヤスキカニ隨<sub>レ</sub>フ<sub>レ</sub>但<sub>レ</sub>此序ニ云<sub>レ</sub>ル発語ト起語トニ点ハ同ク<sub>カクハラ</sub>点ス<sub>レ</sub>ハ註キ時終<sub>レ</sub>ラン

又法

句格

|      |      |      |    |    |
|------|------|------|----|----|
| 序文   | 発端   | 発語   | 起語 | 結語 |
| 返辞   | 决辞   | 釘辞   | 歎辞 | 括辞 |
| 語路   | 助語   | 押字   | 抱字 | 句頭 |
| 枕詞   | 句拍子  |      |    |    |
| 句讀   | 長短   | 語路   | 斷續 |    |
| 影畧互見 | 結前生後 | 錯綜顛倒 |    |    |
| 奪胎換骨 | 無心所着 | 上中下畧 |    |    |
| 雲土夢  | 長短句  | 蟋蟀   | 鳥鼠 |    |



一

本注  
頓挫  
連玄  
隱見

題名

歲詩經註以磯刺病也既  
 曰折前夏之失也  
 文式論宜曲折深遠也  
 或曰又覆尺之情也  
 又心離毫解叙也在子  
 有角口牛之子美也  
 豹食史年紀載夏跡以  
 傳于世或曰記其姓名也  
 說文謂一々分別記之  
 虛曰以備之忘也  
 說文罪人相與說也文式  
 宜之折明白也  
 文賦註曰辨口之詞明前  
 夏之虛誰感人心也  
 朱子詩傳頌之廟樂歌  
 美盛德之形容也  
 子臺依也明也三選有傳  
 贊或曰論贊也



銘 礼記 諸書我之辭 也 銘也

表 又選本註表明也 標也 如物之標 或曰 類 政吏 曰表 陳夏 表也

教令 蓋 獨斷 諸侯 言 曰教 訓也 後也 亦曰令 告戒也 亦也

書狀 約會 書 字 其言 如下 其意也 亦 狀 猶言 也 狀 狀 見人也

序跋 說文 序 東西 廣也 廣 曰次 才 之語也 量 跋 足也 私曰 序 之先後者也

對向 說文 對 應 無 所 也 或曰 以 寸 法 度也 約會 引 說文 曰 向 訊也 聘也

日記 說文 曰 記 往 來 也 紀 與 記 同 私曰 日記 曰 本朝 多用 記 用 之謂也

碑文 說文 碑 石 紀 功 德 也 亦 義 運載 當用 木也

弔文 又選 為 弔 祭 也 弔 弔 向 之義也 私曰 可 言 弔 而 訪 向 也

昔三行文章ノ題名ハ黒々ニ明ナラス大概ハ似タル物多シカニハ  
和漢ノ文章年氏ニ有尾ノ文ヨ言ニ心得アリシカ既ニ文選ニハ  
弔屈原文トアリニ右文後佳ホハ賦類ニ入レ勝王固序  
モ或本ニハ記類ニ入レタリ知ラハ漢文ノ字者トテモ分明  
ナラズトハ見タリ去レト文鑑ノ論ニ云ハコ屈原文ハ元々  
弔文ナルヲ勝王固序ハ記トモ云ケレトホニ到リテハ賦ト  
云ハシカ固ニ序ノ字ハ如何ナレ但シ此類ニ序ノ字ヲ用ケハ勝王  
固ニ指フトカ會スルヲ云ヘシ是ハ其ホニ詩アルヨリ不妄ニ序ヲ  
ヲ置ケルナラン也等ニ選者ノ好惡ヲ知レハナリ本ヨリ文章ノ題  
名ハ諸抄ニ其註ハ明ナレト一字ノ上ヲ註シテ字面ノ似タル物  
ハ分明ナラス也故ニ其名ノ紛ラハシキ合セテ多ニ註解セリ  
ハモ其題ノ似テ似サル者又ハ字義ト子訓ニ少ナラン總テハ



二十金題ナランヲ云々ニハ二十七題ヲ挙ケテ不似ト相似トノ二別ヲ  
 註スルニ漢文ノ結ハ殊ニ知ラズ倭文ハ云々ニ分明ナランカ  
 或ハ詩ト歌ハ凡雅ノオトスル物ニテ法格ハ本ヨリ厳重ナリ然レハ  
 又選テトノ部ニモ歌行曲吟ノ類ヨリ引モ辭モ詩類ノ中ニ  
 散在セリ何レモ此名ノ詩ヨリ出テ詩ヨリモ変化ノ所ヲ知ルハモ  
 詩歌ノ四題ハ云々ニ細註スルニ及ハス

或ハ歌ト行モ尤ハ相似スル物ト知ルハ詩人玉屑ニモ相兼テ歌行ト云  
 トアリ云レト氷川詩云ハ言ヲ承シ情ヲ放テテナノハ法格ヲ定メス  
 凡ソ七ハ或ハ長短ノ句拍子ナランカ但シ此類ノ中向ニハ君不見ナト  
 云ル短語アリテ樂府ノ常語ナリト註セリ詩ヨリモ法度ヲ有キ  
 タレハ倭文ニハ一体モアラン本ヨリ和音ハ註スルニ及ハス  
 或ハ賦ト記トモ相似タレト賦ハ當道ノ物ヲ形容ヘテ文法ニ凡流スル

レ記ハ往古ノ起リヲ記シテ文法ハ實体ナルレ但シ賦ニ叶韻ノ法モアラン  
 或ハ辭ト云フ時ハ詩ト騷トノ声ヲカキテニ体モニ歌フヘトを漢文  
 ノ辭ヲ見ルニ何ニテモ其古又ヲ序シ其書ニ辭アリテ必ス叶韻ノ法ヲ  
 用エ先ハ古人ノ漢文ニ隨フヘシ云レト書籍ノ論ニヨラス平話ニ辭ト云フ  
 時ハ倭文ノ一体モ有ラシカト我ハニ談論アリ後凡俗辭ニ見ルニ誠ニ  
 漢土ハ文字固ニシテ我朝ハキ本國ノ固ナレハ辭ハ助語云々ニテ序ナリ  
 モ日本ハ詞ノ微情ヲ尽セリ然ラハ辭ノ体ハ後助アルキ古又ナラン但シ  
 字書ニハ辭トモ辭トモ俗子語子ノ論アレト又鑑ハ總テ讀マスキニ  
 隨フ是ヨリ以下ノ字論トモ云々ニ效ナレ

或ハ曲ト云フハ本曲ニ情ヲ尽スヘト註シタレト何ノ文ニ云フカ藤相  
 ニ合テ委細ニ情ヲ尽スミシキ曲字ノ註ハ不審ナリ倭ハ凡俗順  
 カ曲調モアリテ先ハ本曲ニ近キ物ナリむモ和音ニハ固曲ト云フ躍



ハ勢附ルト云フニ拍子ヲ拍子ヨリナニ拍子ト定テ向脱ト云フハ拍子  
ナレバ漢ニ長短ノ句法ナト世等ノ唱テリニ知ルキカ  
或ハ吟ト云フ時ハ拍子感スル所ヨリ文字ニ沉思ノ姿アリテ我ト物思  
歎息ノ聲音ナレハ虫鳥ノ註ニ吟字ヲ尽セリ後ニ白頭吟モ條ニ  
負女吟モ文法ハ但シ歌行ノ類ナラン  
或ハ謡トハ世間ノ凡俗ヨリシテ軍中ノ謡ヲ云スレ或ハ歌ナト書  
ナル所ハ歌ハ琴ノ唱テリナト見レハ漢書ノ只モ明ナリ和テハ各調  
或ハ引ト序トハ長短ノ差別ト註シメルト序ト引ハ各別ノ二ナリ強  
テ序引ノ差別ヲ云ハ序ハ詩ヲ云フニシテ何ノ詩ナリ序ト云イ  
引ハ詩ヲ云フ後ニシテ何ノ引ナリナト云レ但シ引字ハ誘引句引ノ  
義ニテ詩ヲノ余情ヲ誘イ出ス心ナラン既ニ文体明辨ニモ引トハ  
君ヨリ以後ノ題各ニテ引ト各ルノ美分明ナラスト幸ハ引類下ニ註ス

或ハ論ト解トハ各別ノ類ナラフ論スレハ解スル理アリテ各ニテ見  
レハ其文ハ紛ルナリ去レト論ハ元々テ相對スル物ヲ論シ解ハ大ニ  
一物ノ理ヲ解ス論ハ悉ク物ヲムツカレウ云イカテ曲折繁ニ述ニ  
論スレハ解シテモ其レヲ論スル者ナリ  
或ハ説ト辨トハ物ノ理非ヲ一合シテ明辨ニ説カレ所ハ相似ナレト  
説ハ虛誑ノ理ヲ以テ人ノ心ヲ感動シ辨ハ實有ノ理ヲ演テ其  
直ヲ辨別スレハ説辨ニ様ハ各別ナリ後又ニ虛實ノ取違ナリ  
或ハ記ト銘トモ相似ナレト記ハ其言ヲ記シ銘ハ其言ヲ銘スト  
云レ況ヤ銘ハ簡約ニシテ文ニ法アリト註シメレハ多ク文章詞アリ  
銘トランハ記トハ各別ノ所アリ但シ紀ト記ハ同シ  
或ハ傳ト記トモ相似ナレト人ノ起リヲ傳ト云イ物ノ起リヲ記ト云イ  
世等ノ通理ヲ故實ト云ナリ或ハ傳録モ傳類ニ入ルレ



或ハ口ト頌トモ似タル所アレトモ言ハ似テ趣ハ異ナリ頌ハ口物ノ形容ヲ  
頌シ歟ハ大方ハ人口ヲ替スルモ言ハ異ニ其通理ハナケレハ其言モ  
故重ト知ルキナリ但シ讃ハモ通用ナリ

或ハ尺素表類トシテ君父ニ奉ル尺素状モ仏神ニ捧ル尺素文類ニナト  
總テ此題ニ入ルベシ其表ハ上ニ奉リ其状ハ下ニ解シ或ハ同其事ニ  
贈答ス此題ハ紛ル物ナレ但シ詠誦文モ其言類ノ詞アレシハ

或ハ書状類ニ申出ス此書ハ勿論ニシテ移文様狀ナト入ルレ  
但シ移文トハ本朝ノ題ナリ

或ハ教令類ト題シテ皇教ノ類ハ勿論ナリ或ハ寺社ノ制札  
ヲ入レシ教ハ寺坊ノ教書ニシテ令ハ王者ノ令命ナリ

或ハ對向トハ文章ヲ先ニ此理論ヲ後ニト云レ向者ハ向ヲ設ケ對者  
ハ對ヲ設ケテ文法ニ鼓舞ヲ尽ス群言ハ雜陳ハ理論ヲ先ニシテ

對向ハ理論ヲ後ニト知ルレ本朝之類ハ對冊トナリ

或ハ日記類ト題シテ行状終事ノ二記ヲ入レシ或ハ紀行ト云時ハ  
日記ノ中ニ入ルキナリ總テ記類トハ各別ナリ

或ハ碑文類ニハ碑銘墓誌ナト入レシ總テ此類ハ序アリ其銘  
墓誌ナトアルニ墓誌ノ論ハ碑文類ノ下ニナリ

或ハ序文類ニハ各文章ナト詠誦文ヲモ含ムレ但シ此類ハ死期  
ノ哀傷ヲ演ヘテ指シテ依格ニナラサレトモ其碑文類ナトニ異ナリ

或ハ誄文ノ自由ヲナサレテ其等ニ和漢ノ差別ヲエテ文章ニ私ナレシ  
或ハ誄ト云イ各ト云イ冊ト云イ啓ト云イ其類ト云イ彈石ト云イ

皆以テ誄文ノ各ニアラヌナリ誄文ニ後詔ヲ用テ時モ文ナク其言  
其言其言ニ心得ルレシ此等ヲ文鑑ノ筆格トセリ況ヤ常人ノ言道ノ

各ヲ但シ設論ハ對向ノ類ナカラ論類ニ接スレ文記述ノ客難



實録ナトハ増テ能説ク格ナシ然ルニ連珠類ト云アリ格ハ  
題名類ニアラテ文格ノ中ニ入ルキニヤ  
或ハ文類碑類ナト古文後集ニ題シタル文トハ詩賦ノ物名ニ  
既ニ陸機モ文賦ヲ曰テ詩銘詠論ハ其中ニ在リ鳥文花文  
ナト一字ハタル題名ハアルニ北山移文ハ檄書ノ類ナレ古戰場  
文モ弔文ノ類ナリ去レト文選ノ策文ヲ文類ト題シタル如何ナル故  
ニヤ知ラス或ハ碑類モ如何ナレ碑トハ石ノ名ナレハ碑銘トハ碑文トカ  
有レシ等ニ選者ノ鍊不鍊アルハ定ニ古文ノ属ナリモ云ナリ誠ニ  
古人ノ詞ニモ悉ク書ヲ信セストハ錯ヲ以テ錯ニ着ク故ナレシ

目錄

○第一卷

歌類

天文歌 伊弉諾 地理歌 伊弉冊 人和歌 下照姫

南朝歌 柿本人麿 連歌 源賴朝 俳諧歌 貫之張

求韻歌 高市万呂卿 題名 芭蕉庵 七種歌 東華坊

字訓歌 秋之佐 念佛歌 雲居智 長恨歌 返歌 權大夫惟冬

詩類

四季花鳥 赤松仙 柳子庵三詠 全 和漢堂花 左

和漢堂月 全 逍遙遊 蓮三信 花鳥詩 有感 渡部狂



秋思 僧園知 十月梅二行堂 微情促織 官六之

山中尋酒 得巴兮 確坊之吏 石像先 寄書 石過角

所思 文石 見月戲作 各東羽 野菊 北北角

送越友明 渡吾仲 蠅昨裏 官伊東照 行路難 信石靴

○第二卷

賦類

硯賦 北子吟 既望賦 芭蕉庵 涼賦 渡吾仲

得基賦 東華坊 讀得基賦 村野航 日和山賦 岸昨裏

悠然賦 種乙子 好色賦 魚好法師

行類

水波行 岸昨裏 下歲行 華表人

吟類

雨夜吟 佐言文

曲類

如曲 作者不知 田舍曲 今 東曲 生何坊 舞子曲 東老坊

○第三卷

引類

富士引 山部表人 羊羽引 東花坊



謠類

雨乞謠 盤珪和尚

石搗謠 王仁平

辭類

風俗辭 渡部狂 山崎辭 永和齋

艷詞 萬成部 獻師辭 烏丸光廣

情捨子辭 芭蕉庵

夕暮辭 東花坊

鳥追詞 作者不知

歲類

田居歲 芭蕉庵

種戀歲

大邑靜

○第四卷

表類

告天滿宮文 德富園 町起清遊寺小案

報恩表

東華坊

教令類

雙文林寺修石碑教 渡部狂

二落柿舍制札 白王寺

書狀類

各浦冠者狀 係賴朝

法文蓮聖人返狀 源中坊

酒成並移文 橘依渡入道

贈左雲老人書

東花坊

二落書 今川了俊

中白和狀 蓮三坊

○第五卷

論類



博學論 東華坊

博知論 西華坊

解類

信仰解法然上人九品解是併房 養生全解

東花坊

地黃二師大解 桐左角

傳類

西王后傳 西行法師

藤六坊傳 各馬岐

白狂傳 東花坊

記類

松記 洛良室

白鷗堂記 木村石丸

獅子庵記 東華坊

往來松記 江北房

六花亭記 西華坊

○第六卷

序跋類

其發序 山雪 東山万句序 兼堂 卜居序 白驢居二

觀五回遷座序 東花坊

第合序 蓮二房

千句跋 荒木田守武

啼鴉集跋 蓮二房

對句類

花鳥對 東華坊

影法師對 櫻木因

○第七卷



辭類

居眠辨趙北枝 挑仙辨蓮三肩 仙鬼辨東花坊 自得辨北七里  
梅長者辨井童平 巴子與杖辨東花坊 招童辨桐花角

說類

說上人說東山長嘯 名少坊主說應浪化 樗商人說木宇中  
名說優都狂 名二子說木路身助 論師說西花坊  
夜話說曹呂利 辻談美 說露五郎 無衛

頌類

舊高友切頌二竹堂 古利須磨頌木林石凡  
醋德頌高九蚌 松茸頌川宣聖

○第八卷

贊類

淨土和讚親善聖人 幸免波寺町贊芭蕉庵  
六玉川前贊僧玉竹 六玉川後贊向去來 我佐讚依系伍  
苦高帝贊銘碧川 貧讚烏落人 貧讚贊東華坊  
蚊柱自讚吾其角 讚徒然讚江北肩

銘類

花桶銘離立南 摺小本銘藤知行 箸柄銘西華坊  
旅硯銘桐花角 古硯銘東花坊 盆銘僧玉竹



本朝文鑑

○第九卷

日記類

芭蕉云雨終年記 吾耳之庵

庚午紀行 四維坊

自造終年記 東華坊

碑文類

芭蕉云雨石碑銘 東華坊

園司墓誌 野盤子

弔文類

生身魂糸文 北七里

弔許文 渡部狂

提綱

一 呂氏ト又章ヲ見ル法ニ七ヶ條アリ才ニ見ニ主張才ニ見  
 規模才ニ見ニ細目關鍵才ニ見ニ主意有尾相應  
 才五ニ見ニ鋪序次第才ニ見ニ抑揚停宕才ニ見ニ計策  
 之句法ト云ハ其ハ此選ノ五ヶ條ニ擬ルニ呂氏才ハ一ハ趣意  
 ニシテ才ハ又法句格ナラン然レハ才四ニハ起結ラ云イ才ニ  
 ハ虚實ラ云ル其才ノ二條ハ明ラ合セテ主テ才ニ云ル  
 ナラン誠ニ虚實ヨリ起結長短ニテノ二條ハ和澤通用ノ文才  
 ニシテ假名有文名ノ配リハ條文ノ式ト云一リ俳諧ノ格我乃  
 ノ式ト云一レハ故ニ和澤ノ文法ヲ合セテ提綱ノ始ニハ云一リ  
 此書ノ都立ニ歌類ヲ附スルハ本朝文鑑ト云ル大意ニテ詩ハ



其ノヲニ對セルヨリ和漢ノ通用ヲ顯セリ然レハ才ニ賦類ハ和漢ノ文佳ホノ先トスル物ヲ賦ハ文章ノ全態ニテ其金ハ皮毛膏肉シ或ハ吟行曲引ノ類ハ太夫詩類ニ加フケハ暫ク賦類ヲ隔ツト一トモ本ヨリ詩騷ノ類ト知ルレシ或ハ其漢ニ詩類ハ所謂詩騷ノ要ヨリ出テ風雅ト俗談ト向ナル物トハ多ク又ニ文鑑ノ一格ヲ立ハナリ其餘ハ十八題ノ各ヲ交テ大概ハ文選ノ部ニニ效ヘリ

一 世書ハ古今ノ文佳ホナラフ所諸ノ作者ヲ主トシテ歌人連テ師ヲ客タラシメ毎篇ニ我々永ノ子モ世理ニシテ文鑑ノ子モ世理アラシカ然レニ我内ノ文章早ク世選ニ數多クハ所謂世選ヲ奉ルニ題コトニ其レカは格ヲ出シハ他ノ文章早ノ足ラサル所ハ強ニ數篇ノ各ヲ出セル誠ニ難スラ誠ニ恐ルレシ増シテ作者ノ尊卑ヲ分ケサルハ題ノ多クニ次オアレハ唐ノ文選モ世故ナラン

一 本朝ノ文章ニ軍書物語ナトハ文法句格モ有ヤカラフ句讀ノ長短ニカハラス偏ニ其方ノ増ヲ明ル物ナレハ文佳ホノ筆格トハ違イアリ辟言ハ源氏秘衣ナトハ雷大家ノ筆法ニモ效ヘテ史記漢書ヲ主トナセル物語ト文佳ホハ世選ノ方別ニ知キ

一 世書ニ源氏枕草子等ノ類ヨリ文章早ク裁入テ私ニ題名ヲ加ヘタルハ楚辭ノ漁父篇ヲ採テ辭ノ子ヲ加ヘタル例ナリ但シ此諸ノ筆格ニ近キ物ヲ選ビテ世文佳ホノ飾トハナセリ

一 文章ニ韻ヲ用ル者ハ才ニ四音ト七音ヲ知ルレシ四音ハ平上去入ナリセ音ハ唇舌牙止齒喉ニ平去入手各ヲ加フ或ハ凡中カ四音ノ韻譜ニ平上入者有テ而シテ上音ハ唇舌牙止齒喉ノ清而遠入音ハ有直而促ト云ハ或ハ説文ニ韻ハ和也譜也モ平上入為平聲成文ヲ為音高實為韻トモ總テ世選ノ



註ニ合ロテ声高韻ノ差別ハ明ナレト倭國ノ人ノ漢文ニ用ルハ  
字面ノ通理ノミヲ知テ語路ノ各律ニ通セサルホトハ譬々本朝  
ニ宮ニ品ニ仲ノ如キ人モ漢ノ叶韻ハ覺束ナシ去テ漢家ノ  
文章ノ韻モ或ハ有リ或ハ有ラステ兎角ニ漢語ノ呂律ニ通セ  
サハ屋文ノ沙汰ハ推量ナリ然ルニ本朝ノ和音ノ中ニ或ハ韻字ヲ  
用ケルニ倭國ノアカサハ分明ニシテ今ノ文鑑ニモ叶韻ノ法アリ  
五レハ本朝ノ韻法ニ譬々六月ト云イ雪ト云イテ次ニ面ヤキト云イ  
悲シキト云フ時ハキノ字ハ同字別吟ニシテ同韻ニ用エキヤ古クノ  
韻法ニモ此格ノ見ユハ漢ニモトモト毎用ノ類ナシ然ラレハ  
假名ノ叶韻ハアコウエヲノ五音ナレバ終ニナラシテ自由ナラン  
去レト春ノユキト平假名ニハ各ケレト秋ノフキトハ各カクニ其等  
ハ休者ノ心得ニアルレソ月ト云イ人ト云フハ各音ナレモ假名ハ辨レ

ト或ハタヒトナフツギト假名ニツケテハ用捨モ有ラン加テ三ツリ假名ノ韻  
法トテモ四声セラル通韻ヲ知レハ一韻ナリトモ元々又韻鑑通明  
ノ人ニ尋ヌレ通韻ノ古又ハミズレ難シ或ハ長公柳ノ詩モ各行ノ  
類モ押韻ノ体トナリハ同韻ニ同字ヲ用エシ古ノ文法ニモ其格  
アリ但レ韻ヲ隔ツレシ或ハ音尾ノ韻ト云フハ漢文トハ遠クアリ  
譬々ハ二句ニ韻ヲ用イ四句ニ韻ヲ用ニ三句四句ニ情ヲ尽シカキハ  
其間ニ四句モ三句モ韻ヲ用エ然レハ中句ハ云イ捨テル故ナリ總テ  
世ノ漢字ヲ字ノ論ニアラス通不通ノ詮ヌナリ或ハ假名ニ平仄ノ  
論モ妻ニク詩類ノ序詞ニ見合ハスレ  
一  
文章ニ助語ノ古ハ人向オ一ノ要文ニテ漢ニ之キ者也ノ四助アレハ  
係ニテ今モ遠波ノ四助ナリ然レハ和漢ニモ云イテ貴賤老サノ  
口スモ今テル係ニテ今モ遠波ハ明ナレトモ漢ニ之キ者也ハ明ナラヌ



去ルハ然ラズ乎矣ナトノ助字ノ音律ニ通セラル故ナリ也故ニ漢文ヲ讀  
 ム時ハ有ルヨリ通キテ讀マスレ君ヤ倭文ニ手合波ナカフハ孩兒ノ  
 物云フニ雲ナラレ譬一倭人ノ漢文ヲ答テ助字韻字ヲ用イタルモ  
 唐人ノ言語ニ通セラル人ハ如何ニ傳字ノ文者トテモ是ハ決シテ信  
 用シカスレ候ニ盡ル武カ助語辭アルモ其字ノ訓解ハ明ナトモ  
 外ニ向テ用ル時ハ一字モ自己ノ用ニ立ス倭ニ藤原藏カ用字格  
 アルモ傳ク古人ノ文格ヲ見覺ヘテ其字ノ訓解ハ明ナトモ外ニ向  
 テ用ル時ハ一字モ自己ノ用ニ立ス然ラハ両書ノ詮要ハ吾ノ音律  
 ニ通シテノ後ナラン然ラ乎矣ノ其外ニモ二十余台ノ助語ニ通ス  
 シテ我朝ノ漢文ハ大キニ覺束ナレ去レト隣ノ君令好トカ知レタル  
 倭文ハ面合ナラズ知又漢文ニ骨折ルハ和漢ニ人情ノ常ナカニ漢文ノ  
 人ニ恥シキ事ナリ然ラハ我朝ノ文事ニハテニナクハ助語ト云フ令ル

助勃ト云イテ二言ヲ讀ム時ハ句ノ頓ト云イテ二言ヲ誦フ時ハ合韻トモ向キ  
キトモ云ヘリ詔路ノ断ル時ノ助音ナレハ誰カ我朝ノ助語ヲ知ラズ  
然レバ漢ガノ些チ正ヤ矣モ本朝ノ手余岐ニシテハ漢ヲ通スルハ  
オミ重モ知リ漢音ニ通ジサレハ大儒モ知ラス知不知ハ云々ニ抑ヤヤ  
去レト漢文モ肩子ハナラ又用アルハ先ハ唐人ニ交リテ唐音ヲ覺メ次ニハ  
唐人ノ文者ニ逢テ夷洛ニ凡俗ノ詞ヲ習クニ余亦見ノ助字ヲ知りテ  
其後ニ漢文ヲ尺目キナリ等ノ諸君ヲ知ラヌ人ノ我ハ漢文ヲ得タリ  
ト思フハ文章ノ道理ヲ知ラヌ方ニ落シ先ハ本朝ノ文ヲ知ルキ  
一文一章ニ假名有テ各ノ配トハ才一ハ作者ノ心得ニシテ才ニハ兼テ著者ノ  
機轉ナリ去レハ先師ノ文賦ニモ五ヶ條ヲ釈スルトテウケヒス野サ數ニ  
啼テトハ當野ノツキ隔テラスト誠ニ漢文ハ上ニ返リテ當野  
サ數ニト連續セリ然レハ倭文ノ配トハ當モ野サ數ニ啼ヌハト云々

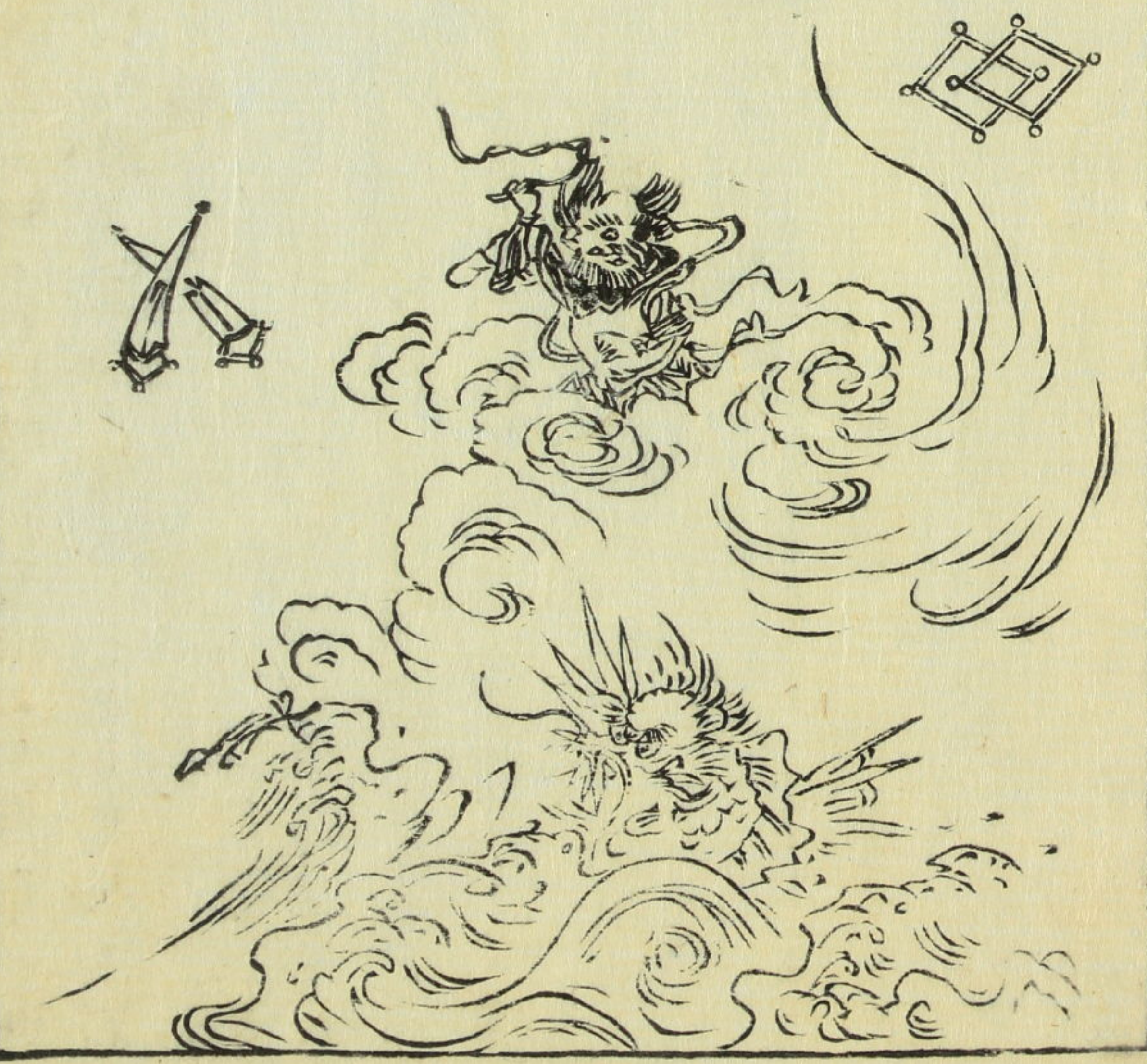
二十五



物字ノ八用ヲ知レシ譬々五用ノ年尔波トモ假名ト貞名トノ向  
 ニ置レシ此故ニ文跡ハ假名ト貞名トノ両用ナリ次ニ筆者ヲ辨  
 トハ譬々八月雪面ハトモ花時鳥面ハ有テトモ貞名ノ訓ニ  
 續キタル但シ筆者ノ不接轉ナリ昔シ故云羽ノ幻住庵ノ記ニ  
 云忽ハ三楚足東南ニ馳セトアルヲ云忽ハ楚足ト云テハ云子ヲ席  
 ニタルハ才ニハ接者ノ不字ト云レシ此等ハ五ヶ條ノ皮モト云レト  
 條文ニ云ハ骨節ナランカ

一 陸士衛ハ文跡ニ云ハ知ルノ難キニ非ス又ハ能スルノ難ト  
 然ルヲ我乃ノ誠ニハ世ニ云早ラ書ク人ハ有レト世ニ云早ラ  
 知ル人ハ有レト云々此兩事ヲ辨セハ知テ能ヤサル者ハサ  
 書テ知ラサル者ハ多ク是ヲ提綱ノ上ノ要文ト見レハ  
 總テハ文早ノ公論ナルレ

# 滋月





本朝文鑑才一

歌類

陷事

天文歌

伴特諾

地理歌

伴特冊

人和歌

下照雄

南朝歌

連哥

永韻哥

題云云

字訓哥

念仰哥

長恨歌 延哥

蓮二房

編輯

渡部和

註解

詩類

附事

四禾子 蒼鳥

獅子庵之詠

和侯賞花

和侯賞月

道遠遊

蒼鳥詩有感

秋思

十月梅

俄情促織

山中尋酒

雄坊之文

寄書戀

所思

見月戲作

野系

送越丸明

蠅

寫

行路難







中田各

[illegible]











ニハ續ニ分レシ又ハエアルニキモ又ニテハ世之角注ノ詞ニテ今ハ  
ニ義ニ中畧ル故ニ本文ノ續トハナセリ然ルニ富士ノ烟ト長柄ノ  
橋トハ二条石泉ノ両家ヨリ今古ノ説モ區々ナルモ或ハ  
ノ辨明ヲ見レハ壁ニ古クニ讀メル富士モ長柄モ世ニ像アル物  
ハ變化スギニ和音ノ意ノく石易ニテ人ハ心ヲ慰ムキニト  
新類ト古意トノ區別ナレハ今ハ其ノ烟モナリ其ノ橋モ  
トナリハ何モ烟ヲヨミ橋ヲヨムキトソモモ世ノ序ノ西ニ所ニ  
富士ノ烟ニヨリテハナリニ心ヲ慰ムトモ云イ結語ニ時移リ古意  
トハ女孝良ノ後時モ移リナリ富士長柄ノ古モ行ナリ石物  
ノ變化ハ様々ナレト世ノ文字アリシハト一段ノ首尾ハ明

ナリ然ラハ諸抄ノ異説アル富士ニ斷不斷ノ論モアラヌ長柄ニ  
造る造る美モアラレト我々ノ秘抄ニハ註タレト但レ和音  
ノ序ノ秘授アラシハ或ハ古今ノ序傳トモナリ物ニ長柄橋モ尽  
クルナリト因テ讀ナリテ人ハ心ニト下ニ續クニト心モ同クハト  
讀下スニカラス其ノ餘ハ總テ先註ニ隨フニ誠ニ世ノ序ノ稱  
スル所ハハ流石ニタトハ此抄ニカケテ君臣父子ノ同心美ヲ  
重ニスルヨリ主婦明女ノ仁愛ヲ忍ビ貴賤老若ノ良モナ  
思ハル本ヨリ儒仙ノ專論ニテ本朝ニ和音ノ基本ナラナ  
ヤ是ヲ信シテ是ヲ仰クニ天地モクモ震動シ鬼神モクモ感  
仰セル實ニハ序者ノ筆カト云ヘシ







本ト註セリ増シテ二神ノ世詞ノ短篇ニテ正通ナルヤ世故  
 ニ天文地理ノ兩儀ヨリ人知ノ題ニ分シタル聖典ノ云ハルヤ  
 ニシテ世ニラ以テ戸物始トハナリ次ニ古今ノ事ノ語モ云ノ  
 意ハ世傳ニ及ハ下照姫ト事ヤ或鳥ト云レハ八雲ノ傳ニハ  
 殊ニ人知ノ始ナルニ云ニ善ク知ル所ナレハ今ハ世姫ト云ラ以テ人知  
 ノ始トハセリケリ然レニ世ニ云ノ多ク註シテ諸所ニ様々ノ説  
 ト世等ハ上古ノ事ナレハ世ノ心モワキナレト既ニ世之モ云レハ  
 分明ナラヌヲ神秘トスレ或ハ情輔カ奥儀抄ニ世ニ云ニ韻子  
 ラ用ケタルカ彼ト世トハ文句ノ遠クアリ歌子ノ意ハ求韻ノ下ニ  
 見レシ但シ世類ノ標題ニ補フニ歌トハ文選ノ詩類ノ始ニ

モ補亡ニ詩トルニ數ハ多ニ一章ニ句ナルモ多ニ一章ニ七句ナルモ  
 神代ハ云ノ文字モ定ラハ世故ニ云ト云ハスレテニ歌トハ云ル  
 ナリ云ルハ古代ノ詞ヲ補ヒテ今世ノ云ヲ照ラヌト云ナリ文選  
 ニ題註ノ意ナラン總テ日本記ノ趣ナラ神代ノ秘説ヲ加フ

南朝ノ歌

柿本、人麿

やとてあけおねのきくくをあやうとて。國  
 々もはよあれもふ川の底よきうらへて。河とらと  
 うの國のむらとておねのやとて。宮とて。ら  
 ぬとて。ふとて。はるあのおねとて。やとて。舟とて。あ



川よりぬふさあひタ川よりタ川のきゆり  
此のいやきうりー玉の所のいふさる  
あふさる

任云世よりハ万葉集ニ在リテ吉野宮ノ祝詞ニハむモ君臣  
ノ和合ヲ讀メリとルハ殆ニ天文地理ヨリ次ニ人知ノ世情マス  
多ニ君臣ノ合體ヲムキトナリ去ハ世より全宮ハ先ハ君臣  
ノ時ヲ終シ後ハ宮造リノ祝詞ナラウ心ヲ吉野ノ夜ニ宣サ  
テ其川ノ流ノ絶ヘサシムス遠ク万年ノ聖化ヲ仰ヘク長ク  
百々ノ風雅ヲ傳ヘキトソ但シ世より才四句ニ詔路ノ振子ノ  
調ニハ一子四テリとキニヤト或抄ニ論アリ

連子

源頼朝

さふめいさこはくくけりさきり  
いさささささささささ

ねえ連子ハカサトムニ舞々舞々音シ頼朝ノ上洛ノ時ニ近ニノ  
守山ヲ過玉フニ復盆子成ニナル見テ連子セハヤト案ニ  
玉ヘラ平時政ハ取アヘス世前句ヲ申上タントフ

誦詠子

貫之娘

さささささささささささささささ



小端やうきやうき

和云此等ハ貫之カ娘ノ九歳ニテ讀タルハ俊頼朝臣ハ此等  
吟レテ涙ヲ落シ結ヘリトテ誠ニ幼女ノ本情ヨリ出テ切者  
ノ介ヲ加ヘル所ナラン然ルヲ歌類ノオホニ置ルハ古代ノ  
モ數多ナカラヌハ貫之ノ序アルヨリ彼カ娘ノ等ヲ出シテ  
先ハ其父ノ不意ニ思ハレテ位階ノ罪トアラントナリ然ラハ  
世等ノ次オヲ見テ選者ニテ私ナク却立ノ先後ハ  
ニ據ヘ知レシ去レト誅諾ト能諾トノ子論ハ清輔カ抄ト  
ニモ誅ハ能字ヲ用ヘシ古今指遺トハむ不審ナリト云  
芭蕉内ノ此五ヶ條ハ師資傳印ノ口訣アルト云ハ古今集

ノ故實ニ任セテ誅諾ノ子ヲ用イタル先ハ文鑑ノ公道ナ  
次ニ選者ノ殊勝ト云ヘシ但シ誅諾ノ凡解ハ雲霞新  
ニモ論アリテ云々ハ誅諾ノ二種ニ分ケテアリ

求韻ノ子

高市萬品卿

うきやうきふいくうきやうきあふき。きうき  
あふきいふきやうきあふき

狂云此等ハ清輔カ奥後抄ニ出シテ求韻ノ子ニ四角  
去レト雜韻ノ体ナト云別々ハ分明ナラス但シ通韻ノ様モ  
見ナリ或ハ長子ノ韻法ニ下照ハ娘ノ等アルト是モ極韻



一似テ同子ヲ用ニ其故ヲ詮セス總テ此等ノ難涉ヲキス  
其書其人ヲ論セヨリ自己ニ至ラ附キナリ但し本朝ニ  
子ノ沙汰ハ詩類ノ下ニ有合ス

題

芭蕉庵

あゝ此ことぬとてふるがてあふく  
うれ人よりあふれよりあふ  
ね云世より祖父師ノ俳諧ニシテ世類モ教多ク中ニ多ク  
子ヲ選ビ一先ハ先ニ或人ノ撰集ニ世より出ストテ  
買人ヨリモ哀ナリケリト書撰シタハ故云羽ノ云免

ニ或ニヌシイ今ハ買人ヨリモト改出セルナリ誠ニ物ヲ買  
賣人ヨリモ方タランハ網羅ニ放テノ專用ナラン如何ニヤ  
彼集ノ選者ノ趣骨ナル去リマ故云羽ノ俳諧ノ子ハ世外モ  
アミタ有ナカラ世ハ鮮ニハ恐ル所アレハ今ハ前子ノ誤ヲ改  
シ多ク世一有ラ出セルナラン

七種ノ言 五七言

東華坊

かりらや七種ノ言。天の雲のわきの外  
といふ。此の言のふくまふ。ふくまふ。ふくまふ。  
りりり。ふくまふ。ふくまふ。ふくまふ。ふくまふ。



[illegible]

狂云以者ハ全篇七章ニシテ其間ニ長短ノ格アリ其格ハ盧仝  
 カ茶、哥ナト置山ト莒蒲、歌ニ效ヘリ總テハ五十八句ニテ章  
 毎ニ二句換韻ナルヲ例ニ青尾ノ韻ヲ用ユ云ハ先師ノ假名韻府  
 ニ奇偶ノ數ヲ調ヘサル故ナリト傳然レハ此ノモ西ノ所ノ詞  
 マリ面白ヤハ神子ノ発語ナルヲ武士ハ乃矢ノ縁語ニシテ  
 今早振ハ神國ノ花詞ナルハ例ニ樂府ノ云イ據ナリ  
 去レハ此ノニ七種ノ名ヲクルニ始ハ齊七種ト云テ望月萬ノ  
 六種ノニ云ヘル鷄毛、菜ハ七種ノ惣名ニ鄉音キテ先ハ齊ノ  
 法附トハムヘリ或ハ面白ノ神子ヨリ鈴ト云フ字ヲ鄉音セテ山石  
 戸ノ囁ハ句、鈴ナカラ法附ノ時ニ即ラモ云ヘルナリ或ハ月本ニ云



上倭朝ニ西都ノ神通ラユイテ仰ノミラニ寄セタルカ百本モナリテ  
我國ト悉皆成仏ノ語ヲ用イ何レカ思フト讀メルコトヲ言  
ム是ラ々箇ノ法ナカラ和漢ニ筆格自在ナラシム或ハ御形ノ錦  
トハ其花ノ紅ナルヲ托シテ錦ヲ敷嶋ト云イカケタル實モ世名  
ノコトニハ偏シテ責ミテハ他佛ノ教ナラト我名ノ不幸ヲ歎キ  
タルナリ或ハ繁縷ノ名ニ便リテラニ袋ニ刷ラハ柄ト云ヘル  
太平ノ林ナカラニ結トムフ御音ヲ取リ然ルニ路ト名荷  
トハ其ノキノ唱ニナシト富貴實加ノ名アラシムハ太平ノ  
物ノ勝レルヲ云ハリむも起語ノ何々ナリ西都ニ教ナラ結語  
シラ草ニ草ノ名ヲ置タル筆端ノ鼓舞ラズルナリ但シ

武王ノ詞ヲ置タルハ本朝ニ奇曲ノ教イアリテ先ハ詠物物  
ナラ始ニ王宮ノ學敬ラユイ次ニ武内ノ護衛ラズル  
クニ又草ノ虚實ヲモ知ルヘシ或ハ芥ニ陸奥トハ遠國追  
エノ貢ニ寄セテ呈シラ又東夷ニテモ譯ラ室シ泰平ラ云ヘ  
リ但シ安達ハ芥ノ名所ナカラ彼里塚ニ鬼アリ氏君ナリ  
ニト云ハシナリ花木佳キニ寂念ノコトアリ然ルラ君み来ノコトニ  
云イカハ仁和ノ帝ノ雪ラズル雪ニ花子ノ移リヨリ花ノ子  
ニハ前草ヲ結シ鳥ノ子ニハ後草ヲ起ス是ラ結前生後ノ  
法ニシテ西都ノ物子ノ同キ所ニテ七種ノ名ヲ結語セリ或ハ穂ニ  
ハ石トハ農民ノ誤ニハ穂ニハ石穂ニ穂カサイト田植詠ノ



穂子ヨリホトトハ七種ノ囀ナリ然レハ此等ノ精末モ信御  
ノ此等ニ過ナラント君ノ所見素ヲ云イナラ天ノ羽衣ノ云ヲ  
借テ来ニ撰子ノ御音ナラニ或ハ千早振ノ詞ハ神ト云子ノ枕  
ナルヲ神國ノ日本ト云イカキタル等ヲ解詁ノ格ト称スレ  
然レハ日本ト居玉ノ句ヲ一振子ニ布タルハ早融木子白カニモ  
アリテ例ニ要言ノ格ト知レ結句ハ和漢ノ二鳥ヨリタテ詩号  
ノ情ヲ合セテ無好カ子ノ凡モ静カニ藤忠カ詩ノ波モ治リ  
テ流竹万歳ノ号行ナレ

字訓ノ号

秋之防

そりれらふりトとぬ「」おしらあ  
人々いり

任云此等ハ炭子ヲ讀テ号書ニ謎詔ナト云レト今ハ韻子  
ヲ用ルヨリ本朝文粹ノ題ニ效イテ字訓ニ子ヲ用ユ去レハ  
炭子ヲ造ラニ山ニ從「」ハ字書ノ常ナカラ火字ヲ人物前  
タルハ字訓作ノ号絶ナランモ寒ケハ炭コレト讀テ金城  
ノ石子ト云リトフ但レ此防ハ賀城外ニ直テ法花一葉ノ通心  
ナリ

念仰ノ号

雲居和尚

ねやうのほらあふれあふ



のしれしらのく  
 ぐもくく十編いよのなうで座山の  
 おもわれれしと

往云世そ八雲居念仏トテ尼入道ノ明暮ニ唱テ一音向ニ  
 ニ子ヲ修ス總テ一万余アリトテ梵音ニ和音ハ奥ノ松嶋  
 ニ住シ愚堂大愚ト名ヲ希テ彼ハ禪ノ活計ヲ示レ  
 此ハ鍾家ノ念仏ヲ勸え其ニ中此ノ名僧ナリ故ニ殆ノ寺ハ  
 聖王来迎ノ雲色ヲ松嶋ノ海ノ夕日ニ攤ヘ次ニ廬山ノ昔  
 トハ蓮社ニ僧俗ノ交リヲ羨ミテ俊成ノ寺ノ教シテ  
 モ思ヘル誠ニ殊勝ヲ仰クヘク誠ニ凡雅ヲ感スヘシ

長恨歌返寄

民部権太左推冬

いー唐土ノ帝かりて 色とろふらんさうも  
 ちやあふた眉もなれ 花の人とのいふにあらは  
 月も驪山の湯あてとらば 花を春に花とてふゆふれ  
 いと端緒よめなめよりい 夏を春の水とてふゆふれ  
 月日もあふたふらうあて 春のゆふのいふとてふ  
 花とてふとれふさういふ 花とてふとれふさういふ  
 花とて秋風のあふとてふ 月とてふとれふさういふ  
 花とて春風のあふとてふ 花とてふとれふさういふ







ミイ豆人稀沐ラミル化鳥登ハ二人傷ニ入チヲ月時モ離レナル故  
客ニノ霜ヲ<sup>イ</sup>厭フハ古クノ詞ナリ但し驪山十月ニ行幸アリテ羽  
年ノ春還リ玉ハ化鳥登ノ霜ハ其比ナルヘシ或ハ端棹ハ端正棹  
シテ華清宮ノ中ニ在リテ書妃カ化粧ノ部屋ナリト其ノ人カクテ  
將衣<sup>ミヤ</sup>ニ出タラシス其ノ水ヲ離レニ似ナラシヤ然モ夕暮<sup>シクナ</sup>暝<sup>ミヤ</sup>  
ノ對ハ約ヲ用ニ奇法ニノハト次句ノ月ヨラ起セリ但し月花ノ  
一字ヲ云ニ其地ニ其ノ風情ナラシ其次ハ予天カ春宵ヨリ徒ト  
云フ子ニ唐詩解ノ識<sup>シ</sup>ラ信テ四時ノ花本有ラズイナト云フ四維<sup>シ</sup>維<sup>シ</sup>  
注<sup>ス</sup>トハ長恨傳ノ詞ナリ但し<sup>ス</sup>ハ張ト云錦ニ<sup>ス</sup>夜ト云ル昔ニ  
和漢ノ鎖辭ト云シ其次ハ人向ハ始終ニシテ何カ秋ニト讀<sup>シ</sup>ナリ

夜ニ<sup>ス</sup>尙ノ無常ヲ云イ月ニ<sup>ス</sup>雲ノニ要化ラズル星ニテ馬<sup>ス</sup>鬼<sup>ス</sup>露  
ト消テ長恨ノ絶心期モナレト云ルハ春宵ノ希<sup>ス</sup>ヨリ次言<sup>ス</sup>冬  
ノ對ヲ置テ再ニ秋ノ字ヲ云テ四序ニ轉變ノ終リト成ルモ  
錦繡ノ法ナカラ四季ノ次オノ自由ラ見レシ其次モ長恨ノ教<sup>ス</sup>ナ  
ハ重<sup>ト</sup>ハ<sup>ト</sup>重<sup>ト</sup>ト云イカケテ何カハ如ラス海上ニ玉樓金殿ノ有様  
ヲ云リ然ルヲ殿守ト守子ヲ云ルハ向<sup>ス</sup>フニ名<sup>ス</sup>又人ノ操ニシテ  
總テハ彼<sup>ス</sup>子ノ縈<sup>ス</sup>絆<sup>ス</sup>ラ云ヘリ其次ハ四<sup>ス</sup>傳<sup>ス</sup>フ其地ハ日本ノ熟田  
ニテ<sup>ス</sup>元<sup>ス</sup>在<sup>ス</sup>トハ彼<sup>ス</sup>子ノ玲瓏<sup>ス</sup>ラ云イ事<sup>ス</sup>テハ<sup>ス</sup>熟<sup>ス</sup>子ノ縁<sup>ス</sup>語<sup>ス</sup>ナリ但し  
化粧ハ化粧ナカラ<sup>ス</sup>言<sup>ス</sup>ハ<sup>ス</sup>ヒト讀<sup>ス</sup>ムヤ然ハ其<sup>ス</sup>人ノ容色ヲ  
思フニ<sup>ス</sup>實<sup>ス</sup>ニモ<sup>ス</sup>人向ノ顔ヒナラ子ハ其<sup>ス</sup>余ニ<sup>ス</sup>喻<sup>ス</sup>ル物ナレト云イ



例ニモ、カ利花一枝ヲ含メリ、其次モ長恨ノ趣ヤラ、此等ノ  
 才モト云イカレテ又月ノ便ト倭文ニ結ビタルハ和漢ニ通用ノ  
 法ナラ、世ニ至平ノ事ナレバ味入レ、其趣ハむモ結ミ平ニ類シ  
 唐李ノ好色ヲ諫ルニ似テ實ハ神國ノ多可特ヲ各々ニ一節  
 ノ趣意モ世所ニシテ又至平ノ趣意モ世所ニシテ故ニ四ノ  
 国ト云フヨリ、<sup>ヨモギ</sup>蓬カ嶋ト詔路ヲ編書セタル和漢文法ニ子  
 ノ私ナク世等ヲ予類ノ文鑑ニシテ四海至平ノ趣意ナレ  
 但シ世作者ハ好良ノ社司ニテ世身ノ趣向ヲ思イ寄セシ先所ハ  
 其ノ人ノ位署ニ代リテ斯文ヲ作ル由ヲ獅子庵ノ遺稿ニハ  
 存置シシカ思フニ、其ハ伊勢ノ神宮ナルニヤ

和類

和歌詠詩序

渡部 狂

先師ガ川テ武江ノ芭蕉庵ニありて、なると  
 白氏文集と云々和漢の流を尋と論とせり、  
 是もや唐土の流と云々に及ばぬ、又云々  
 い詩詠と云々五の詠路あるより、はくわて五言  
 七言あり、わやと云々和漢通流あるや、  
 その詩の拍子、ありありとわやと云々、又和歌  
 の五七詠あり、ありと云々、又その拍子あり、







或ハ五九も六八も或ハ七こともや六も其句の  
抑子より——或ハ假名の韵法ハ漢字より  
て下の字と用ひ候より返りも返りも  
その語のとりと用ひてそと和漢の差ふ  
ま——は——は今遠波の字のあんなや花の  
もこれより候国を假名の二よりあんなとや  
或ハ漢字の平仄を候る用合の舞音とあつて  
あつて平仄の論はふつとあつた此等の差ふ  
とふに唐の文より声ありて候る其  
あつた候より漢字の声とあつて五字より

漢の一字より候る平仄の論はあつた其やけなり  
其等の歌ハ唐土の詩とあつていふ意なり  
といふいふ——いふ漢字の樂府あり  
も在詠の体より其旋あり或ハ互に七言律詩  
より對あり句對ありに群言ハ牡丹と櫻の  
假名よりあつていふの對ありく或ハ聲の  
いふ一字の長短ハ今波よりあつていふ  
三言と四言のいふ二より詠路の伸く句讀  
の向ふがあら或ハ花のちりもあつていふ  
いふいふいふ假名よりあつて對あり——或ハ意對







狂云世ニ假名ノ詩ト云フハ是ヲ本朝ノ淺解ニ是ヨリ法格ヲ定  
ムル故ニ先ハ詩類ノ題下ニ付テ序ヲ置テ二則ニ歌類ノ序  
アハニ效ヘリ云々獅子庵ノ遺稿ナレハ也

或ハ此序ニ依リて又佳ホトハ有レハ云々天カ我朝ニ来リテ  
日本ニハ詩ノナキ更テ嘲リタレハ住吉ノ神ノ歌ヲ以テ  
和漢ノ通情ヲ示シ給ヘルカ我朝ハ華テ一寄ノミナラン  
詩モ此ノ如クト云ハ又ハカリニ何トナク彼カ又佳ホラ奉テ  
詩多ノ論ニトハ云イ出セリ

或ハ天上ノ詩格トハ南海寄飯傳ノ才ハ在リテ大子士  
呵利ノ自嘆詩ニ由テ染便飯俗離貧還服緇如何  
西種更垂我君嬰兒其外ハ龍樹馬鳴ナト十卷  
ノ詩賦アリ

或ハ詩經ノ如ク五トハ先ハ其雷章有梅云々ナト其  
外ニハ五ノ句拍子アリテ之ヲモ一句ト云イハナラモ  
一句ト云レト二句合セテ一句ノ意ナル物多シ故ニ東  
五七ノ語路トハ云ヘリ

或ハ漢音ニ通セストハ唐人ハ文ヲテ音ニ唱（我朝ニハ  
文ヲテ訓ニスレハ漢文ニ五七ノ長短アルモ何ノ拍子トモ  
知レヌイナリ）如何ニ心得テ日本ノ詩人ハ八千里ノ外  
ノ詩ヲテ子フソト也



或ハ俗謡モ躍口説モ同シセタ互ノ振子ナガラ是カラ  
見レハ近ハカハルナルナト此等ハ四之ノ振子トテ和歌ニハ  
之ヲ振子ヨリニ五トモ五ニ凡用ル也凡雅ト俗談トノ差  
別ナトト振子ニモ知ルキカ辟言（平生ノ俗話雜談ニ  
モ五七語ノ振子ヲ知ル人ヲ嘲上手トモ口快者トモ  
云ハ増シテ筆ヲトリ紙ニ向イテ我ハ之者ナリ 愚ハシヤ  
或ハニナシトアルラモ一言トハ安ク字ト一言トノ註解  
ニメナヤナラ合セテセヨト云イナナラ合セテ五言ト  
云フキ其ノ所以ノ再釈ナリ辟言（九言モ八言モ物ノ振  
ヲ知ラシ人ハ總テ呂律ニ合ハスキラ五七ノ語路ト定メル

振子ヲ知ラヌ人ノ捉ヤラシ故ニ和歌ノ字アリヲ引テ詩經  
ヲ證文ニ出セルナリ去レハ詩經ノ卷頭ニ関々ケル雉鳩在河  
之洲トハ一句ノ意ヲ二句ト云レハ本朝ノ詩ニモ二句ヲ一  
句ニメニナラシ一言ト云キハ十ヤナラ合セテセヨト云  
ト根本ノ詩經ヲ鑑シノ一字一句ノ私ナキ是ヲ古人ノ  
先格ニヨリテ一條ノ法度ト云フナル一誠ニ五七ノ振子  
ノミ、詩歌ノ先達モ論セサラシハ之ニ本朝文鑑ノ  
面皮トス（キハ此論ナリ  
或ハ韻子平反ナト總テ古人ノ法格ヲ破ラヌ振子所ノ  
異ナラハ増シテ本朝ノ手柄ト云レシ次ニ律詩ノ法トテモ



總テ作者ノ才覺ラ以テ永ク假名ノ詩ノ風体ヲ起サハ  
今日ノ人ハ明レノ師トナリ明レノ詩ハ百世ノ文鑑タラシ  
去レハ本朝ノ詩ノ元祖タラシハ先ハ詩ノノ徴古擬古ヲ  
子ヒテ古詩ノ風体ニ效ヘルヨリ次ニハ和漢ノ通情ヲ  
アハシテ漢土ノ詩人ニ東坡山谷カ以テ慕ヒ本朝ノ文者  
ニ菅家源順ノ名ヲ思ハサラシヤ然モ江淹ノ序詞  
ヲモ引ナカウ古人ノ法格ヲ見合セテトハ和漢通用ノ  
論ニメ一時流行ノ儔トモ云フ一し但し此序ハ先師遺  
稿ナルヲ暫ク白狂カ名ニ寄セテ實ニ其言ヲ傳レハ  
結語ハ蹠ノ一字ヲ以テ序者ノ誠恐誠惶ト見ル一し

擬古二詩

花鳥 五言

花

春風吹散落花紅。 芳心已逐落花風。  
落花流水春無處。 流水落花春去也。

鳥

春風吹散落花紅。 芳心已逐落花風。  
落花流水春無處。 流水落花春去也。



和歌ハ一世ノ凡俗ナルヲ知り各歌ハ千歳ノ君子ナルヲ  
見六和葉ハ兔毛角モ掃スウヘキニ各花ハ今悩乱  
スト花も落葉ノ如キヲ含メタル詠急ナラニ分明  
ナリ然レハ其葉ヲ和ニ喩ヘ其花ヲ名ニ喩ヘテ其  
ハ酒色ノ両歌ナト花ニ喩フルハ的面ナラン或ハ之ヲ  
句ニ至リテサ化ヲ葉ノニ字ヲ重子タル或ハ墨詠ノ格  
モ似タト是ハ本注ノ法ニ古詩ノ体ニハけ格アリ或ハ  
君看ノニ字ハ歌行ノ常詠ニソ世向一詩ノ人ヲ指ス詞  
ナリ或ハ花ニ悩ムトハ江上被花悩ナト杜公ト詩ノ  
詞ヨリ靜心ナクサ化ノ放ラントモ絶ヘテ櫻ノナカリセハ

トモ詩奇ノ人情ヲ汲ミテ花ニ和ル歎息ナリ然レハ  
標題ニ擬古ニ詩ト云ル前ニ歌類ノ之歌ニ效イテ其  
ニ詩トハ題ナリカモ此詩ハラコトノ韻ヲ用ユ叶韻ハ  
總テ多ニ效フレ但シ花仙ハ先師ノ詩号ナリ  
和云鳥ノ一章ハ衣食住ノ感ナリ去ハ人向ノ世ニ在  
テハ寒暑ノ往來ニ苦ホアリテ富貴貧賤モ其レニ  
隨フ者ナリ然ルヲ我身ニ感スレハ衣ハ行先ノ有ルニ  
隨フ食ハ行先ノ<sup>モチナシ</sup>隨フ住ハ行先ノ留<sup>ニ</sup>遊フ者  
ト此ニ三苦ホ交ハリテ野山ノ鳥ニモ似サラマ然レハ  
假リノ世ノ苦ホヲ認テ憂シツラレトハ如何ニ思ハヤ



我ハ往還<sup>ユキ</sup>古巢アリト鳥ヲ思ヒ身ニ喩ヘテ自向  
自答ノ詞ヨリ應無所任ノ心ヲ示シタリ増レテ  
知花ニ鳥ヲ云ヘル言ノ巢ヲ己カ家ニノ例ニ時鳥<sup>ホトキス</sup>ノ往  
還ル急ナラン本ヨリ先師ノ記モ云ヘル天下ニ幾<sup>イタク</sup>處ノ  
獅子庵アリテト古巢ハ飯喰ノ田地ナリ去ハ花鳥ノ詩  
ノ四本ヲ云クナカラヌ六知花ノ言々云ヘル似<sup>ホカ</sup>テ及ニ  
往還<sup>ユキカニ</sup>ト云フ詞ノ鎖ニ知花ノ言ト云クカケタル言々ト冬  
トヲ離々聞シテ是ヲ隱見ノ法ト云フ也此等ハ我朝ノ風流  
ニシテ唐國ノ詩人ヲモ欺<sup>アサム</sup>クキ所ナリ誠ニ奇ニシ妙ナルヘク  
妙ニノ神助アリト云ハシ正ニ本朝ノ詩ノ卷頭タラニ此等

ノ教誡ニ花鳥ノ情ヲ顯<sup>ハシメ</sup>テ家ニ條ノ通ナカラシヤ近ク  
此詩ヲ學ヘテ遠ク其人ヲ嘲ルヘカラン

獅子庵ニ詠 七言

本花七句

松

松とあそべい松も森らむ。 我とひうせなとてあそべ。  
雪のつらき月のおもひ 竹のあそびえとてあそべ。

茶

松とあそべい松も森らむ。 茶とあそべい茶も森らむ。  
雪のつらき月のおもひ 竹のあそびえとてあそべ。



い

等々々々あは性ふれ。

利体の家の教書もいふと。

和云松ノ一章ハ明友ノ趣向ヨリ藤魚ツルカ松ヲ讀テ  
 松ヲ昔ノ交ト云イ吾子歎カ竹ヲ戀ソ竹ヲ此君ト云  
 元和漢ノ風流ヲ取合セテ詩意ノ通情ヲアハセリ況ヤ  
 松竹の名ヲ類シテ松ニ公字ノ所以アルヤ或ハ松露堂  
 トハ和歌ノ詞ノ云イカケニテ松ニ根字ノ鎖辭ナリ或ハ  
 雪ノ日ニ月ノ夜トハ松ニ月雪ノ形容ヲ附ケテ字面ハ  
 四時ヲ含メタリ誠ニ先生ノなヲ思ハシハ曉ノ露堂ノ教

其ヲ三遊ノ子ハ莊子カ助臂アリテ逍遙ノ筆カモ  
 歎スヘク以雅ノ曲情ヲ尽セリト云フヘシ

和云茶ノ一章ハ俳諧ノ趣向ヨリ和漢ノ詩意ヲ取合  
 テ楚辭ハタニナハ梅ヲモ忘レケン何トテ朝夕ニ歌フ  
 吾ニ讀レヌハ茶ノ遺恨ナリト云レト我家ノ俳諧ハ詩  
 歌ニ肩ヲ双ヘカタク前漢豆ノ會ニ茶ヲ注シト例ニ  
 虛實ノ文法ヨリ例ニ俳諧ノ筆格ナリ云レハ以雅ノ上  
 ノ揖讓ヲ以テテ茶ノ飽体ヲ見ルキナリ  
 和云必五ノ一章ハ和歌者ノ趣向ヨリ以雅ノ二敵對セリ  
 所謂ハ法世寺ニ並ハ洛外ノ名物ニソ竹ノ皮ヲ以テ造ル







牡丹ヲ云イ我朝ノハ櫻ヲ云テ其趣ハ異ナシトモ  
其意ハ同シキトナリ次ニ後對ノ鼓ニ咲トハ唐玄宗  
ノ遊幸ニシテ時ナラズトモ花ノ咲タルヨシ羯鼓樓前ノ  
詩ノ意ヲ借り用イ鐘ニ敲ルハ奇ノ詞ナハズモ  
和漢ノ情ヲ對シ殊ニ哀ホノ二相ヲ云ハル鶯鳴カ鳥  
僧ノ對ト云フモ花會々ラ尽ナル所アラシカ或ハ唐  
ニ立野トハ古今佳事ノ俳諧ニ奇ヲ借ツテオニハ和漢  
題名ヲ結シオニハ詩奇ノ通情ヲ顯ハス又ニ起結  
出微ヲ味フシ去レハ五言ノ詩ハ本朝ヨリ起リテ本朝ニ終ル龍  
カ評ニモ云ハル此等ノ次オハ選者ノ心得ナカラ本朝ノ詩格

ヲ定ムキ作者ノ粉骨ヲ知ルキナリ

我云月ノ詩ハ俳諧ノ体ニ效ヒテ全ク虚誑ヲ尽セリト  
云レシ去ルハ和漢ニ月花ヲ貴シテ本朝ニ詩格ヲ定  
ムキニオニハ我朝ノ和奇ノ風体ニ效イオニハ我朝ニ俳諧  
ノ筆格ヲ定ムシ彼ニ五言律ト云イ此ニ七言律ト云  
ハレ題ノ次オハレ謂ナリ去レハオニオニ句ハ金原シカ  
禁止ノ詞ヲ借りテ安仲磨カ飯盛ノ吟ニ寄ス先ハ  
我朝ノ誤謬ヲトスルヘシ次ニ前對ハ詩奇ノ詞ヲ  
ナラテ微瀾臥王塔トモ余波金不定トモ其ニ  
古詩ノ姿ヲ写シ月ノ桂ノ實ヤハナルスリヲ花ナラ



ハカリニト讀タル古歌ノ情ヲ合セタリ次ニ後對ハ子歎  
 カ故言又ニ寄セテ雪ニ山陰ノ夜ヲ憶フトハ夜雪初晴  
 月色清明ト云ルハ字ノ急ヲ備リ用ニ然ラハ露モ  
 更科ト云ルモ露ヲ晒スト云イカケテ共ニ天ノ皎潔  
 ヲ雪ト露トニ形容セリナヨリ會社ノ山陰ヲ云ハ  
 ヤニケテ訓テ更科ニ對シタル和漢ニ不思議ノ各所  
 ナフニカ増シテ夜ノ字モ婉ノ字モ和漢ニ月下ノ風情  
 ニ千里外ノ詩ヲ合メ厨メカ子ツノ歌ヲ合ハス此等  
 托物ト與ノ体ト知レシ然レハ結句ハ二ノ趣ヲ結ビ唐  
 ノ詩人ハ旅霜ノ月ヲ思フ故郷ノ妻ヲ思フ佳ル

我朝ノ名月ハ芋ト諸君三月ヲ詠メテ瓦樣ノ物思  
 アラストハ芋ト妹トノ郷音ヲ云ル此等ヲ倭語ノ自在  
 ヨリ無心所着ノ体ナカラ俳諧ノ文法モ多クヤルリ  
 本朝ノ詩格モ多クヤルレシ或ハサレトハ任他ニテ瓦樣  
 ノ畧語ナレハ是ヲモ和漢ノ通詞ナラン或ハ別ニ夜ヲ憶  
 後ハ物ヲ思ハスト云ル同字ノ差別モ多クニ效フヘシ

道途遊

五言

蓮二子房

あゝ力をよれ中に  
 手繰れハ我はむれり  
 くるりくるりあれや  
 かく獲て風味なり



紀云詩ハ声ニ裴翠ノ眸ハ掛物ノ賛ナルヲ今ハ遺遠遊  
ノ二字ヲ題シテ凡雅ノ是非ヲ掃却スルモ且鳥ノ瘦  
未雨ナリ詩ノ意モ見ワシシ然レハ人向ノ好意ノ中ニ  
霖レハ我鳥鳥覺ハ鳥為我ト云ハ在子ア齊物  
ノ意ナリトテ句法ニ錯綜ノ自在ヲ見ルニ或ハ鳥ノ  
世間人ヲ指メ仰慕スル人貶剥ニ任セ儒門ニ相難如何  
ニ急ナレハ我世情ノ味ニ尽キテ凡雅ノ優劣貶ニ心ナレト也但  
鳥差ハ前ノ鳥ヲ望子テ是ヲ望字ノ格ト見ルシ

飛花老仙花鳥詩有感  
五七言  
潘郊狂

むし。い。は。あり。の。人。む。あ。く。  
今。と。も。の。の。の。これ。う。め。  
は。あ。あ。い。も。の。の。の。の。の。  
は。と。の。の。の。の。の。の。の。

紀云詩ハ先師ノ遺思ニ重垂前ノ追憶ナリ去ル季ノ白  
ク五七言ニ效ヘリ李氏憶友詩ニ秋風清。秋月明。  
落葉重。四還散。寒鴉極。復驚。相思。相見。知。  
何。何。此。日。此。夜。難。為。情。トアリ然レ其詩ハ六句ナレ  
秋風ノ句ハ落葉ヲ起シ秋月ノ句ハ寒鴉ヲ起シテ  
其詩ハ六句ニテ四句ノ意ナレハ此詩ハ十二句ニテ四句ノ



意ナラシキハニヤト云イテナクナリヤナラニ句ニモ  
 兼用ハ多ク同シキコトモト其詩ハニ々五々セキトモ  
 ハルニ假名ニシキトモナリ付ハ意アリテ詞タラス是  
 長短ノ句法ニモ似タレト其ハ其句ノ置所ヲ定メテ  
 別ニ長短ノ詩格ハ有レシ此等ノ法格ハ千差万別ナリ  
 何ハ我朝ノ假名ヲ以テ漢家ノ真名ニカランヤナリ  
 云ハ花鳥ノニ字ニ詩格ヲ起シ今ハ花鳥ノ感ニ詩格ヲ  
 結シテ實ニ本方白ハエケセテノ韵ヲ用イ倭ニ渡白狂  
 ハラクスフノ韵ヲ踏ム一字一点ノ私ナラニハ若ヤモ師ノ  
 遺命ヲ傳ヘテ世ニ付一格モ有ランカ也

秋思

僧園如

尾上の座の秋と云れよ 耳にふるふ老のさるを  
 けらのふゆのゆと云が おののふをふふのふと  
 狂云此詩ハ眼前ノ秋情ヨリ我身ノ老ヲ感シタル徒然ナリ  
 四季ノ改ニモ世ノ経<sup>経</sup>モタヌ又身モ空ノ名残ノ惜キト云ル  
 光陰空過ノ嘆自ナリ然レハ我輩ノ紅き草ノ色ヲ春花トモ  
 詠ムハ四季ノ風雅ヲ云フニホントナリ況ヤ明日ヲ待タハ  
 天ニ風雨ノ變化ヲ云フ人ニ死生ノ西東ヲ云フ或ハ紅き草ヲ  
 ナルト云ル杜牧<sup>ミナモト</sup>カ行ノ詩ヲ借テ世ニ事ノ将<sup>ミナモト</sup>ナセリ但シ世老  
 ハ濃<sup>ミナモト</sup>山野ノ之輪ノ山下ニ南居ス同雅ニ云賓ノ侍アリ云レ



十月梅

二所堂

此はじいーを幸有といね ほとけのあかひさしん  
 もあひはあひふれ 一子の節も圓いこしん  
 任云詩の隠見は法に全き梅子ラムスむも一六天神所詠  
 十のう笑や世にハ梅の夏ニソ腰句ハ石依ノ井草多雨ノ落句ハ并已  
 P 軍梅ニ言可セテ寺子ニ言又ラ勸タル總テハ留守ノこまヲ称シ

俄僧促織ヲ古詩三章

宮六人

其一

ちいあひしきいふかき ほとけのあかひさしん  
 けいそのの長刀のあひさ 柳あひかりてあかひさしん

其二

ちいあひしきいふかき ほとけのあかひさしん  
 けいそのの長刀のあひさ 柳あひかりてあかひさしん

其三

けいそのの長刀のあひさ 柳あひかりてあかひさしん  
 ほとけのあかひさしん 柳あひかりてあかひさしん  
 任云世に三章ハ古詩ノ体ニシテ何レモ促織ヲ起句トセル詩經ニ多ク  
 世格アリ去レハ促織ト云フ虫ノ指シテ情(キ古又キニ事ノ答ヲ  
 囀ム時ハ花モ片輪ニ咲テ好カラス世故ニ其題モ俄僧トハ云ヘリ  
 其ハ詩ノ情ヲ設ケテ古詩ノ長刀ニ思フ知ラセシトハ例ニ凡雅ノ



畫實ヲ拙スレ其ニハ遠玄ニ氣色ヲ瀟々ニ胸句ニ思堂字ノ格ヲ  
用イ腰句ニ思詔ノ格ヲ用エむモ和ノ漢ナルヘシ其ニハ詩ノ華  
ヲ飾リテ花ニ心ト云ハコリ小蝶ノニ子ヲ思フ寄セタル況ヤ促織  
ノ手利ナカラ蝶雨ノ撲撲ミモ方タルハト責テハ彼ニ恥ト云  
僧ノ子ニ情アリテ風雅僧愛ハ世誑ナレ但シ作者ハ宮田氏ニ  
濃ノ山縣ニ素生ス常ハ弟ニ在ニ幽遊シテ自ラ高卧即ト稱セリ

山中尋師

得已

門の松より海と暮らめれ 畚ゆりけりまゝ前よりや  
行とけれふく底と暮らめ 師りそのをふくひ  
ね云詩作者ハ故リテ美濃ノ山里ヲ廻リニ山道ノ艱難ヨリ

甲家ノ不自由ヲ云ナリ去ハ畚掘ト云フ古ハ擔賣ノハ商今  
云ニ其國ノ俗談トフ總テハ山家ノ形容ニハ思ノ情ヲ云セリ  
云ニ但シ作者ハ得能ギテ越ノ福ニ住ス東華寺古乃今ナリ

碓坂ユキ

石依兔

所ル市中の商人もほろりと市中此處者  
もけれし之國の市よりけり橘ふみ葉とな  
しとけれしつゝさりのひねとやけりけり  
雨窓の奥もあはれやと之床庵の隣よりふかきと雲  
よりけれしつゝ向とけりけりけりけりけりけり







所思

文石

じーにぬふぬいそふぬ  
 くらふふふのりあふけい  
 ーあーぬのふふーや  
 人のうーにぬふふーれ  
 ぬ云々詩ハ杜陵カ題ラ備テ人向是昨ラ嘆息セシニ先ハ聖子  
 カ悲系ニふヨリ前後ハ無心所着ニ世路ノ區々タル云ルナラシ  
 但し作者ハ甲陽抄内ナリ過角ハ書傳テ姓ギヲ録セス

見月戲作

冬東羽

誰ううしや天体とてこれ 月のやうなわものよ  
 うう男のねらふかうい  
 くらふふふの子れぬふふ  
 狂云々詩ハ哀郊ナリ月詩ヲ備テ天津シテハ婦人ナリ

ラ云ハり或ハ月宮ヲ月都ト云ル詩ナリニ多ク用ヒ来レリ然レハ  
 世ニ云フ桂月ノイワシカ月宮ノルナニ通イテ今書ハ月子ノ  
 名ニ逢ヘルハ月十五夜ノ月出度サレト題ニ戲ノコト云ルニ  
 俳諧ノ筆格ハムシ但し作者ハ濃ノ北野ニ任ス各書ギルナリ

野系

江北信

秋のふれはふくのや  
 くらふふふのりあふけい  
 ーあーぬのふふーや  
 人のうーにぬふふーれ  
 狂云々詩ハ青尾ノ時ニ和漢ニ格ヲ用ヒ来レリ去ハ人向ノ  
 采花ヲ思ハ秋ノ花野ノ色々ナシ中ニ誰无我ハト思イ奈  
 タラシラ野系ハ花ノ角素ナシ誠ニ風雅ノ鑄ニシテ作者ノ喻ハ



ハ身の上ハ但シ老ハ農ノ如ク納ニ三座ニテ穠ニ草山ノ穠ニ嘉納ス  
或ハ萃ヲ好ミ以雅ニ遊ハ能田舎ノ老農ナリ

送越花明 三五七言

渡吾仲

あー 袖のむねにききあふ  
あー 一にのききくさね  
あー ねききあふとあふと  
あー 秋のやうなききあふ

秋云詩ハ字面ノ伏ヤラ袖花ト松茸トニ寄リテ夏来ニテ  
秋帰ル意ヲ云ルモ別恨ノ風情ヲ尽セリ但シ花明ハ  
越ノ直江津ノ僧ニテ蕉門ノ風雅ニ遊ヒリトフ

蠅

岩野裏

蠅とあふくさるる  
花とあふくさるる  
あふくのききあふと  
あふくのききあふと

任云此詩ハ歌ムヲ憎蠅ヨリむモ和風ノ情ヲ云スニ明對ハ虚ニ後  
對ハ實ナル云ニ五言律ノ風格ヲ知レシ況ヤ秋風ノ便ラト社寺ノ  
風情ヲ附ヤラフ豈非ニ俳諧ノ筆格ニ誠ニ假名ノ詩鑑ト云ヘシ

鴛

伊東恕

誰々そとろやよらん けふあひつたあふい



けふまのいのちの星は啼くに  
 名もこのいれぬをえなむ  
 征西詩ハ骨ノ姿情ヲ尽セリト云レ然レニ骨ハ雨ヲ容ム鳥ナリト  
 和訓モ雨容鳥乾ト云リトフ豈縫ハ古キノ各所ナカラサモ花三  
 モ骨ノ容ナリ但シ作者ハ越ノ敦賀ニ住ス洋吹ギノ俳士ナリ

行路難

渡右の靴

年よりありて年より難し  
 甲の皮も金もふたよりね  
 神々花よりあふもふれを  
 甲の皮も金もふたよりね  
 人よりありて年より難し  
 甲の皮も金もふたよりね  
 神々の腰も金もふたよりね  
 甲の皮も金もふたよりね  
 君よりありて年より難し  
 甲の皮も金もふたよりね

征西詩ハ骨ノ姿情ヲ尽セリト云レ然レニ骨ハ雨ヲ容ム鳥ナリト  
 和訓モ雨容鳥乾ト云リトフ豈縫ハ古キノ各所ナカラサモ花三  
 モ骨ノ容ナリ但シ作者ハ越ノ敦賀ニ住ス洋吹ギノ俳士ナリ

征西詩ハ骨ノ姿情ヲ尽セリト云レ然レニ骨ハ雨ヲ容ム鳥ナリト  
 和訓モ雨容鳥乾ト云リトフ豈縫ハ古キノ各所ナカラサモ花三  
 モ骨ノ容ナリ但シ作者ハ越ノ敦賀ニ住ス洋吹ギノ俳士ナリ



ノ法アリテ等ヲ長篇ノ鑑トスニ但シ作者ハ渡部氏ニ志師ニ世ノ  
柄子ナリ常ハ玄山ニ世ヲ遊シテ連ニ肩トホニ耘耕セリ

叶 韻

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | カ | サ | タ | ナ | ハ | ニ | ヤ | ラ | ワ |
| イ | キ | シ | チ | ニ | ヒ | ミ | 井 | リ | イ |
| ウ | ク | ス | ツ | ヌ | フ | ム | ユ | ル | ウ |
| エ | ケ | セ | テ | 子 | ヘ | メ | エ | レ | エ |
| ヲ | コ | ソ | ト | ノ | ホ | モ | ヨ | ロ | オ |





蚊ノ戯

吟

富貴虫魚ハ山川に傳へる物よりしてあつたはた〜食を喰め  
さう〜に於て詩人よをうも奇人にゆ〜其趣いゝま〜  
中に故をふあつたを座を後にして都に流の心いゝ夕暮の  
陰〜ハ朝露を陣を浮つて月〜涼〜夏の夜ろ〜夜とら  
帰られ雷のめ〜声ゆつたも丈ハの蛇降を携た〜つ〜を幸  
いハ実たてき〜たて〜人の能ををき〜あ〜指を者の夢い  
といふた〜も〜も〜顔〜に〜る〜食も又帰る〜  
業にゆ〜や〜とや姑の節也昔〜に〜眼を憐れん  
近〜い〜歩〜。而〜快〜あ〜る〜後〜  
方〜透〜何〜い〜て〜に〜沙の〜大款を〜落  
稀金〜子や〜ん〜母〜と〜新〜や〜れ  
誰〜人〜臨〜に〜樞〜金〜差〜れ〜邪〜を〜臨〜  
ふ〜子〜明〜は〜る〜い〜あ〜ん〜を〜其〜臨〜を〜開〜ん  
ふ〜只〜せ〜の〜一〜は〜あ〜い〜

川新成りやなと雲の好きうれ



